

4～5月の農作業～植え付け特集～

定植の基本について

○定植前の準備

①苗の確保

- ・茎が太く、節間が詰まっている
- ・下の葉が枯れていない、虫の食害が見られない

果菜類	定植苗の大きさ	葉菜類	定植苗の大きさ
トマト	本葉8～9枚	ハクサイ	本葉5～6枚（ポリ鉢）
ミニトマト	第一花房が開花始	キャベツ	本葉2～3枚（セル128穴、 ペーパーポット）
ナス	本葉7～8枚 第一花房開花	ブロッコリー カリフラワー	
ピーマン	本葉8～9枚 第一花房開花前	レタス	本葉2～3枚（セル128穴） 本葉3～4枚（ペーパーポット）
キュウリ	本葉3～4枚（接ぎ木）		本葉4～5枚（ポリ鉢）
スイカ、カボチャ、 メロン	本葉4～5枚	セルリー（セロリ）	本葉6～7枚（ポリ鉢）
		長ネギ	本葉3～4枚

②定植直前の管理（水・温度）

定植直前までは水を切らさないようにする。ただし、定植前日は株がしおれない程度に多少水を切らし気味にしてすると活着がスムーズに進む（植穴には十分かん水する）。

露地に定植する場合は一週間くらい前から外気温に徐々に慣らしていくとよい。

③畑の準備

- ・堆肥や石灰は全面に施肥し、良くなじませておく
- ⇒石灰窒素を使用する場合は定植 1 週間前には施肥し

ておく（**施肥後すぐに定植すると苗を痛める**）

⇒消石灰、生石灰は化成肥料と同時期に施肥しない。

（**アンモニアガスが発生して苗を痛める**）

- ・施肥・畝立て→前号（151号）参照



うね間

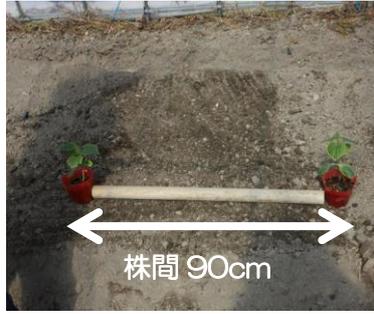
○定植のポイント

☆定植に好ましい天気

- ・ **好天で風のない日**

→苗が速やかに活着するためには地温と水が必要

→風が強いと土壌が乾燥しやすい。また活着していない苗は風に弱い



① 穴を掘る

移植ごて等を使ってポットのサイズより少し大きめの穴を掘る。深さは植えた後にポットの表面が地面と同じ高さか少し高くなるぐらいにする。畦幅と株間は仕立て方によって異なる(写真は株間 90cm、条間 70cm)

②③植える前に十分にかん水する。根鉢を壊さないように、注意して、株元を人差し指と中指手で挟むようにしてポットを取り外す。



④畝と同じ高さか多少高くなるように定植する。殺虫剤を使用する人は定植時に使用できる剤を土壌と混和しながら使用する(ダントツ粒剤、アドマイヤー粒剤など。使用する際はラベルをよく確認する)。



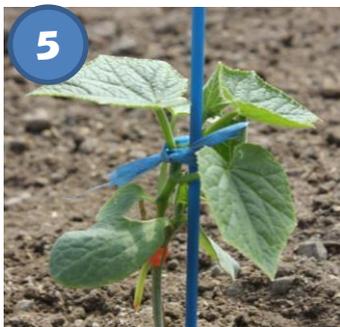
○ 定植の良い例

接ぎ木苗を使用する場合は、接合部が地表に完全に出るようにして植える。



✕ 定植の悪い例

接合部が土中にある。これだと接合部から発根してしまい、接ぎ木の意味がなくなってしまう。



定植したばかりの苗は風に弱いので仮支柱を立て、ひもなどで誘引する。きつく縛ると苗が大きくなるにつれて痛むので、余裕を持たせる。



⑥定植後は水と温度管理に注意。この時期は水温が低いので、過度のかん水は苗にとって逆効果になる。強い風が吹くなどして乾燥が進まなければあれば朝 1 回でよい。通常であれば 3~4 日で活着する。

あさつゆ連絡先

電話番号：0268-41-1062

FAX：0268-41-1063

技術事項作成協力

上小農業改良普及センター(岡崎)

電話番号：0268-25-7156(直通) FAX:0268-23-2161